

(5) 蕨岡小学校

学 校 長

石川 真紀

校内研代表者

山崎 充子

1. 研究主題 「自らの考えを持ち、共に高め合う児童の育成
ー主体的に学び、考え、表現する算数科の複式授業研究ー」

2. 主題設定の理由

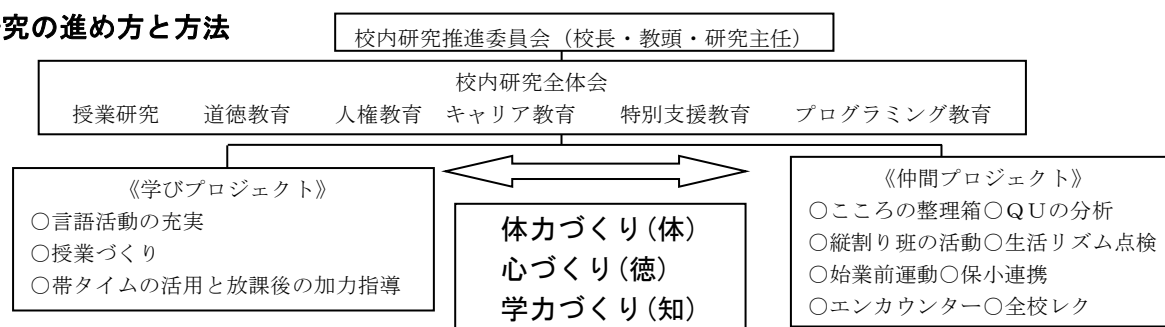
「自らの考えを持ち、共に高め合う子どもの育成」という研究テーマに沿って、完全複式授業の中で、目標の達成に向けて取り組んできた。

昨年度、「高知の未来をつくる推進プロジェクト授業づくり講座」の指定を受け、算数科複式授業において「見方・考え方を働かせる授業」を創造していくために、単元デザインと授業づくりについて西部教育事務所指導主事より指導・助言をいただきながら、授業力向上に努めてきた。また、主体的・対話的で深い学びにつなげるための素地として、学びプロジェクト（発表朝会、全校集会、読書活動の充実、新聞への投稿など）や仲間プロジェクト（Q-U、こころの整理箱、エンカウンター、全校遊び、縦割り班活動など）も継続してきた。

その結果、目指す児童の姿を描き、そこに向かう単元デザインをつくり、上学年は学びなおし、下学年は先を見通す複式授業が展開できつつあることは、授業力向上につながっていると言える。また、ICTの活用により、児童の興味関心を引き出し、学びを深めることにもつながっている。これらの取組の結果、各種学力調査の結果も全国平均を上回っている。しかし、一方で、他の意見を取り入れ自分の考えと比較したり広げたりすることや、考えや学びを活用して表現する力が弱いという課題はまだ解決できていない。また、両学年の学習指導要領の趣旨を読み解き、学びの系統性を確認していくこと、それを年間計画に生かすことも、昨年度からの課題となっている。

そのような実態をふまえ、本年度も「自らの考えを持ち、共に高め合う児童の育成」～主体的に学び、考え、表現する算数科の複式授業研究～という研究テーマを引き続き設定することにした。「主体的に学び、考え、表現する授業」に近づくためには、複式のデメリットをメリットと考え、両学年に共通する見方・考え方に視点をあてた授業を創造していきたい。そのために、単元計画を工夫し、異学年の学びがリンクしていく授業づくりを目指す。また、思考力、表現力を高めるために、聞く・話す・書く活動を取り入れた鍛える授業を仕組むとともに、基礎学力の定着を図るために個に応じた対応も設定していきたい。さらに、ICTを効果的に活用した授業にも引き続き挑戦していく。そして、コミュニケーションや集団での関わりを大切にしていくために、道徳や人権、キャリアなどの視点からも取組んでいきたい。そのような取組から自分の意見を言える力が身につき、他の意見を聞きそれを基に自分の考えを確かにしていく児童の姿をめざしたい。

3. 研究の進め方と方法



4. 具体的な取り組み

【授業での共通認識】

- ・黒板に「めあて、思考過程、まとめ・ふりかえり」がある授業
- ・児童の思考を深める展開になっている授業
- ・1時間の中に「話し合う活動」「書く活動」がある授業
- ・問いから振り返りまでの1時間完結になっている授業

【めざす授業の共有化】

- ・全学級研究授業を行う。教科は算数を基本にキャリア教育 or 道徳教育 or 人権教育
- ・研究授業は事前研究（校内研究での教材研究と指導案検討）を行い、授業改善につなげる。
- ・授業参観の視点に沿った協議を行う。
- ・授業力チェックシート（年間2回）による授業の数値化と分析・改善。
- ・外部講師（松山起也先生・西部教育事務所指導主事）からの学び。

（1）日々の授業を高める取り組み

- ・めあては、1文または、問いがある2文で作成した。全教科で同じようにめあてを提示して、本時のまとめにつなげた。
- ・間接指導を工夫し、話し合う活動、書く活動のある時間を確保するようにした。
- ・単元計画を立てて、ICT活用やキャリア教育の視点を入れるようにした。

（2）授業を支えるための取り組み ―学びプロジェクト―

① ことばあそび

- ・年間3回の中で、ことわざ、国語辞典、百人一首についての学習を進め、語彙を豊富にしていく取り組みにつなげた。国語辞典は全員に持たせ、授業でも活用している。

② ノート展示

- ・全校で学期に1回行った。多目的ホールにノート进行展示し、全員が評価をする。
- ・学級での場合は全員のノートを展示して、同学年の中の頑張りを紹介した。

③ 家庭学習の充実

- ・低学年から自主学習を位置づける。ノートの最初に自主学習の手引きをはっておき、内容を考える手立てにしている。
- ・テストやプリントの間違いや予習を取り入れるようにした。
- ・ダントツシートの活用

④ 帯タイムの活用

- ・朝の（木・金）国語朝会、（火）Chrome 朝会、昼の算数タイムを活用し、計算や漢字の力をつける。
- ・学習の習熟や活用問題を行う。
- ・単元テストを利用していく。

⑤ 放課後の加力指導

（3）授業を支えるための取り組み ―仲間づくりプロジェクト―

① 体力・運動能力の向上

- ・朝マラソン（7～9月は除く、雨天はラジオ体操）を行い、日本一周のカードに記入している。
- ・一輪車、サーキット運動、なわとび運動を行う。

② こころの居場所となる温かな学校づくり

- ・縦割り班の活動（学校行事、掃除、児童会主催全校レク、班長による読み聞かせなど）を常時利用して、互いに協力することや上級生としての役割を身につけていく。

- ・仲間づくりを目的としたエンカウンター（7月、10月、2月）を実施した。
- ・QU検査・学校生活アンケートの分析（QUと学校生活アンケートは2回、ミニQUは3回）から、個々の児童について分析したり、変化をみていったりした。
- ・こころの整理箱（学期に1回）を行い、児童を知る手立てにした。

③基本的生活習慣の構築

- ・生活リズム点検（月1回）を行い、分析、課題の共有をした。また、学級全体の目標設定をすることによって、気をつけようという意識の向上につなげた。
- ・栄養教諭による「パクパク教室」「食育（お弁当の栄養）」の授業を行い、教科（家庭科）や食への意識を高めた。
- ・全学年へのがん教育の授業から、自分の生活を見つめ直したり、家族との話題に取り上げたりして、健康に対しての意識が高まっていった。
- ・がん教育（5・6年）
- ・保健朝会

④保小中連携

- ・スタートカリキュラムとの関連から1.2年生と年長の授業交流を毎学期行い、入学に備えている。
- ・保育所での各学級の読み聞かせは、園児と関わる機会になり、つながりを深めることができた。（3～6年）
- ・生活リズムチェックを同時に行うとともに、その結果を保育所に返したり、共通の目標を立てたりすることで、地域全体で生活の向上につなげている。

5. 今年度の成果と課題

〈成果〉

- ・複式を生かした指導をすすめるために、領域を合わせた算数科の年間計画の作成に取り組むことができた。
- ・領域別の掲示物を計画的に増やすことができた。
- ・ICTの活用で学びを深めることができた。
- ・Chromebookの使用頻度が高まった。
- ・生活リズム点検やQU、心の整理箱を定期的に行い、生活習慣の実態や児童の心の変化について把握し、共通理解をもって指導に当たることができた。
- ・算数タイムで、まなびばこを活用できた。チャレンジ問題にも取り組み、復習や習熟ができた。
- ・家庭学習にAIドリルを活用することができた。メクビットを活用して復習に取り組むことができた。

〈課題〉

- ・学習指導要領の趣旨を読み解き、学びの系統性を確認し、年間計画を修正していくこと。
- ・ICTの更なる充実。授業の中でどう使っていくか他校の実践や研修等から学んでいくこと。
- ・とも学びの中で、活発に意見や考えを出し合い、練り合える力をつけていくこと。
- ・メディア使用時間の個人差をどうとらえ、改善していくか。

